2022 年 7 月 12 日

会　議　議　事　録

会議名	2022 年度第 1 回　東京工科自動車大学校三校　教育課程編成委員会 ＜東京工科自動車大学校、東京工科自動車大学校世田谷校、東京工科自動車大学校品川校＞		
開催日時	2022年6月3日 （金）　15:00～17:00		
会場	東京工科自動車大学校　123、124教室		
参加者	委員	19名	【出席者 16 名】 ◇一級教育課程分科会 ・佐藤　康夫（全体会議長、一級分科会議長） ・佐々木　章　・有松　真一　・酒井　彦樹　・宮谷　真樹 ・増田　智秀　・園田　幸祐　・淺井　恵一 ・井上　真一（書記） ◇二級教育課程分科会 ・松村　道隆（二級分科会議長） ・武井　和則　・国分　秀貴　・永野　英臣　・清　宏一郎 ・鈴木　雄也　・澁谷　健（書記） 【欠席者 3 名】 ・保田　正義　・油井　文江　・坂本　康将
	事務局	2名	・葉山　和彦　・田中　健司（全体会書記）

全体会

配布資料

＜配布資料＞
・議事次第
・資料A … 全体会説明資料 （パワーポイント）
・資料B … 2021年度自己評価結果・学校関係者委員評価書
・資料C … 委員名簿
・資料D … 前回議事録

報告事項

1.委員の任期及び新任委員の紹介

事務局より各委員の任期のズレが生じた原因の説明がなされ、今期より是正させて頂いた旨の報告がなされたのち、新任委員の紹介を行った（資料A、C）

2.委員長挨拶

委員長より挨拶として下記の説明・報告がなされた（資料A）

【2021 年度実績報告】

①委員会開催実績　②就職実績　③整備士国家試験合格実績

協議事項

分科会議長・書紀の選出及び検討テーマを事務局より提案された
・一級課程分科会　議長：佐藤委員長、書記：井上委員
・二級課程分科会　議長：松村委員、書記：澁谷委員
・一級課程分科会　検討テーマ
　Ⅰ.口述試験廃止に向けた総合カリキュラム内容検討について
　「国土交通省発表の新たな自動車整備士資格制度の概要（写）」を資料として配布
・二級課程分科会 検討テーマ
　Ⅰ.2021 年度 中野校 3 学科の科目変更内容の詳細報告
　Ⅱ.2023 年度以降、二級課程に於いて取り入れるべき授業内容の意見交換

検討テーマについては、全員一致で承認された。なお、その際に次回開催日程（10/7）

	についても確認された。 以上をもって、全体会を散会とし、分科会に移行した ――――――――――――― 一級教育課程分科会 ―――――――――――――
配布資料	＜配布資料＞ ●新たな自動車整備士資格制度の概要 ●自動車整備士技能検定規則等の一部を改正する省令案について ●自動車整備士資格制度見直し ●口述試験出題形式、出題方針等について ●一級自動車整備士に係る総合診断及び故障診断の技能に係る学習のポイント
協議事項	**1.口述試験は廃止に向けた総合診断カリキュラム内容の検討について** 議長より、今年度の一級分科会では、先に発表があった口述試験廃止を前提とした将来の総合診断内容の教育カリキュラムについて、検討テーマとしてゆくことについて説明があった。 **2.従来の口述試験対応の教育内容をどのようにしてゆくかについての意見交換** 園田委員より、配布資料の確認後、自動車整備士資格(一級、二級、三級)について、一種目に統合及び資格制度の見直しスケジュールに対して説明があった。 一級整備士口述試験廃止に向けた、従来の教育内容をどのようにするかの検討が必要である。現在の総合診断授業は、口述試験対策をメインに実施しており、CSについては主題に置いていない。教科書(総合診断)を使っているが、教科書変更に伴い内容変更が考えられる。今回は大きなくくりで意見を伺いたい。 各委員よりの意見 →＜学外委員＞現在の試験対策として問題はないが、目を合わせない試験のため大丈夫だが、実際のお客様説明の場合は、目を合わせないのはありえない。口述を残すのであれば、お客様として行うことが必要である。また、専門用語の説明が必要であり、練習はお客様目線に立って行うことが重要である。試験の形式にこだわらず、授業としてより現場に近づいた授業形式が良いと思う。何も知らない人に向けて説明できる力が必要である。 →＜議長＞NGワードも知っておく必要があり、基本的な説明能力を身に着けさせることが必要ではないか。口述試験開始の際に国土交通省の役人から、一級人材に説明責任能力を期待したい旨の説明があったことを記憶している。 →＜学外委員＞口述試験対策の授業時間はどのくらいか。 →＜園田委員＞中野校は30コマ実施している。現在は口述の練習のみ行っている。 →＜学外委員＞卒業生は(一級口述)の説明はできていると感じる。5分の練習ばかりしているので変更してはどうか。口述ができた背景は、物を聞き出す力、伝える力だと思う。お客様対応として不安を解消させて、車の状態を伺う5W1Hがポイントだが、真の原因を見つけるスキルを身に着けて欲しい。実際は、現場で身に着けるがポイントを学校で教えて欲しい。また、会話力、対人対応能力を身に着けて欲しい。 →＜学外委員＞NGワードとして、例えば「この部品が良く壊れる」とかは、絶対に言ってはいけない。知識として持ってもらいたい。守るべき情報、発信しても良い情報の区別が重要。口述は、継続した方が良い。より現実になった口述に触れて欲しい。特に再現性のない「お客様から情報を聞き出せるかが重要」である。問診は重要だが、今までの問診と異なり、バージョンアップされた問診が必要である。古い体系を時代に合わせた問診へ、バージョンアップさせる。

	→＜議長＞つまり、対顧客との会話ですべて完結させるのではなく、その後上長への「報・連絡・相」に結びつけるスキルが必要となるのではないか。 →＜学外委員＞お客様と信頼関係を築くことが重要であり、「雑談力」も必要、会話をさせた方が良い。 →＜井上委員＞学生は現場をイメージできていない。実際の体感が重要である。 →＜学外委員＞音（異音等）は、お客様と同乗することが必要。 →＜学外委員＞ハブナットを緩めて走行させて、確認させて音を確認させて欲しい。 →＜淺井委員＞現在の試験は言ったか、言わなかったかを聞いている。どこまで出来るか、色々貴重な意見を聞けて良かった。 →＜学外委員＞すぐに不具合と断定したり認めたりすることは良くない。後にクレームへとつながる可能性がある。「異音」とは不具合である。「気になる音」ということが重要であり、直せない作動音もある。 →＜議長＞NGワードは社会的に通用しない言葉であり、会社としても言ってはいけない言葉がある。口述試験はそれらを意識した出題や採点をしているわけではないので、あらためて内容を精査する必要がある。まとめとして、カリキュラムは4年間まとめて2024年には届け出が必要である。今回は貴重な多くの意見を頂いた。30コマレベルではこれらをすべて網羅できないので取捨選択する必要がある。一度学校側で整理させていただき、次回その内容をもとに意見交換し基本線を見出してゆきたい。 議長より　次回の分科会は10/7(金)に実施する旨を確認し、以上をもって閉会とした。 ――――――――――――――― 二級教育課程分科会 ――――――――――――――― ＜配布資料＞ ●変更概要、新旧対照表 ●国土交通省資料（整備士資格制度）
配付資料	
協議事項	**1.2022年度　中野校におけるカリキュラム変更の詳細報告** 議長より中野校で2022年度入学生向けに行なった2年課程のカリキュラム変更についてその目的と概要について、配布資料（変更概要、新旧対照表）により説明が行なわれた。※変更を行なった大半が2年次の科目となるため、効果検証は翌年以降となる ・変更の目的 自動車技術の発展に伴う最新技術を取り入れる余地を作る事を目的とし、必要優先順位の低い科目を整理・統合し、時間数の削減と実施時期の調整を行う。 ・変更内容 ＜実習科目＞ 整備頻度のない「オートマチックトランスミッション(AT)」と「ディーゼル燃料装置」の整備実習を廃止する。ただし、①国家試験に関連する内容の講義科目は残す②エンジンメンテナンス科は競技車両の一部で類似構造の整備頻度があるためAT実習は廃止しない。加えてエンジンメンテナンス科においては「ガス溶接作業」を廃止する。（整備科、1級科はすでに実施していない） ＜講義科目＞ 留学生への指導を手厚くするため、危険物取扱者資格取得のための「自動車化学」を廃止する（取得希望者は個別に対応）。加えてビジネススキルの向上のための「ソーシャル検定中級取得講座」を廃止し、就職対策講座に組み入れる。 ＜研修科目＞

	10年以上開講実績のない「大型車企業研修」を廃止する ・今後の課題 上記により確保した時間で最新技術を教えるための授業の選定と準備を、若手教員のスキルアップと併せて推進する。また世田谷校、品川校においても抱える問題は共通であり、中野校の取り組みを土台とし、順次カリキュラム改編、新規授業開拓を行って行く。その上で委員各位のご意見を頂戴したい。 ・学外委員からの意見等 特になし **2. 2023年度以降、二級課程に於いて取り入れるべき授業内容の意見交換** 議長より配布資料（国交省資料）により新たな自動車整備士資格制度の概要について説明が行なわれた。現状で新試験の出題傾向について明確な提示はなく、一級と二級の線引きもわからない中だが、ある程度予想を立てて備えて行く事は出来ると思われる。この場で委員各位がここ数年で増えた整備の内容や技術的に変わった事があればご教示いただきたい。 →(学外委員1)エーミングの頻度は増えた。 →(学外委員2)ソフト面（コネクテッド）が進化している。診断データの見方が変わってきている。 →(学外委員3)ある装置で起きた制御不良が他の装置の制御に影響を及ぼすことがある。制御をとことん理解し複合する問題に対応できる力が必要。 →(学外委員4)フルＥＶの取り扱いが増え、バッテリ管理に起因する故障が見受けられる。 次回会議では品川校、世田谷校のカリキュラム変更概要の報告及び今後取り入れるべき授業について委員各位のご意見を頂戴したい以上を以 て会議を終了とした。 会議風景 【一級教育課程分科会】 【二級教育課程分科会】
次回日程	2022 年 10 月 7 日(金)　15:00～17:00　＜会場は未定＞

以上